

平成 21 年 4 月 30 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2006～2009

課題番号：18520613

研究課題名（和文） 20 世紀前半のカナダ西岸のサケ缶詰産業における日系漁民と他民族との比較研究

研究課題名（英文） A Comparative Study of Japanese Fishermen and Other Ethnic Groups in the Salmon Packing Industry on the West Coast of Canada in the First Half of the Twentieth Century

研究代表者

河原 典史（KAWAHARA NORIFUMI）

立命館大学・文学部・准教授

研究者番号：60278489

研究分野：歴史地理学

科研費の分科・細目：人文学・人文地理学

キーワード：カナダ・日系人・サケ缶詰産業・移住・民族・火災保険地図

1. 研究計画の概要

日系（日本人）漁民の活動は、20 世紀前半におけるカナダ西岸の漁業・水産加工業界では決して等閑視できない。イギリス系カナダ人が経営するサケ缶詰製造業は、原料となるサケを漁獲する優秀な漁民と、それを加工するサケ缶詰工場（キャナリー）での多くの従業員が必要であった。そして、ネイティブ・インディアンや中国系、やがてフィリピン系移民など、さまざまな民族との共同、あるいは反発のなかで日系漁民は活躍していたのである。しかし、これらの他民族との協業、あるいは分業体制をふまえて当時のカナダ漁業界を捉え、そこでの日系漁民の活動を検討することは、資料的制約という安易な理由のもと、地理学だけでなく隣接諸科学においても看過されてきたのである。

そこで本研究では、20 世紀前半のカナダ西岸におけるサケ缶詰産業について、他民族と比較検討することから、新たな日系漁民史を構築すること目的とする。

2. 研究の進捗状況

(1) BC 州サケ缶詰工場図集成

1880 年代には、わずか 3 ヶ所のキャナリーが開設されたにすぎないが、90 年代以降になると、4・5 年ごとに大量に発生するサケの遡上を鑑みて激増する。日本人は全体の 63.8% にあたる 44 ヶ所のキャナリーで雇用されていたが、彼らだけを雇用するキャナリーはなく、ほとんどではインディアンや中国人とともに従事していた。

ほとんどのキャナリーでは、缶詰工場本体の周辺には、それぞれ独立した民族別の居住

区があった。インディアンの居住施設名は Indian Hut（小屋）、中国人は Chinese Bunk（寝台舎）という小規模な施設であるのに対し、日本人のそれは Japanese Cabin（簡易住居）と表記・呼称されることが多い。漁撈を担う男性と缶詰め作業の女性からなる家族構成をとる日本人居住区には、Net House（網小屋）や Shed（小屋）のほか、漁船や運搬船の新造・修理を担う Boat Builder（造船所）のほか、Billiard（ビリヤード場）や日本語学校なども散見された。

(2) 会社報告書と個人別帳簿

BC 州南部にあるフィニクス・キャナリーの Returns（会社報告書）によれば、同所では一定数の白人が従事するが、工場での缶詰め作業を中国人、漁船での漁獲を日本人が主要な労働力であった。それに対し、BC 州最北部のアランデル・キャナリーでは、一部の白人が工場での重要な業種に就き、インディアンが主要な労働力となるものの、中国人と日本人が同様の補完的労働力になっている。この相違は、BC 州最大の都市・バンクーバーに近接するフィニクス・キャナリーが、アジア系移民を比較的容易に取り込んでいることを示している。

アランデル・キャナリーについては、Debit（個人別帳簿）から漁業者ごとの魚種別漁獲量が判明する。主要な魚種はサカイ種で、その最盛期は 7 月から 8 月であり、ほぼ 1 カ月後にはピンク種の漁獲が多くなる。ただし、それらの漁獲高には個人差がみとめられる。たとえば、和歌山県日高郡比井崎出身の清水直七が 745 尾のサカイ種を漁獲してい

るのに対し、鳥取県出身の西村熊太郎は、その半分にも満たない。

3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している。

継続的なカナダでのフィールドワークにより、各地のアーカイブス（公文書館）との連携が構築できており、新たな資料を収集できた。また、BC州和歌山県人会を中心に日本・カナダ両国におけるインタビューをめぐり協力体制も整っているため、順調に研究が進展している。

4. 今後の研究の推進方策

代表的ないくつかのキャナリーについて、関連施設の景観復原を試みることを課題である。また、そこでの日本人の漁獲量・高の平均値、ならびに特徴的な人物の生業歴に関する分析も必要となる。

5. 代表的な研究成果

〔雑誌論文〕(計6件)

河原典史「第2次世界大戦前のカナダにおける日本人の就業構造」、地理月報、501号、1-4頁、2007年、査読無。

河原典史「『BC州サケ缶詰工場地図集成』にみるサケ缶詰産業と日本人漁業者」、立命館言語文化研究、19巻4号、246-250頁、2008年、査読無。

〔学会発表〕(計3件)

河原典史「錯綜するカナダ日本人移民のネットワーク 漁業、教育、そして娯楽」、京都民俗学会・第203回談話会、(2007年4月24日、ウイングス京都)。

河原典史「『BC州サケ缶詰工場地図集成』にみる20世紀初頭サケ缶詰産業と日本人火災保険地図の予察から」、第51回(平成20年度)歴史地理学会、(2008年5月18日、宮城大学)。

〔図書〕(計1件)

米山裕・河原典史共編『日系人の経験の国際移動 在外日本人・移民の近現代史』(人文書院、2007年)276頁。

〔その他〕

河原典史「日系人の足跡をたどる：バンクーバー新報創刊30周年記念特別企画(12)」、バンクーバー新報、2008年12月18日。